

令和2年度 NIE 教育実践報告(取組 2 年目)

日置市立土橋中学校

NIE担当 恵 正幸

1 はじめに

本校は、全校生徒 14名の小規模校である。日々少人数で活動することが多いために、様々な考えに触れたり、議論して考えを深めたりする経験が乏しくなりがちである。そこで、NIE の取組によって多角的なものの見方や、自分の意見や考えを適切に発信する方法を身につけることが大切だと考える。

昨年度のNIE実践 1 年目は、新聞に触れる機会を増やすことに重点を置いた。8 月に宇都宮で行われた「NIE全国大会」にも参加させていただき、多くの刺激と新聞活用の可能性を感じることができた。今年度は新聞にさらに親しみ、読み込み、活用する実践を進めている。

学校教育目標「“学び合い、共に働き、高め合う”生徒の育成」のもと、生徒の実態に応じて新聞を活用した授業・行事を展開しつつある。この積み重ねによって、小規模校だからこそできる生徒の主体的で対話的な深い学びにつながっていくものと考えている。

2 実践内容

(1) 令和 2 年度購読計画

新 聞 名	配 達 月 (◎は 2 部配達)										
	4月	5月	6月	7 月	9月	10月	11月	12 月	1月	2 月	合計
朝日新聞				○	○		○			○	4
毎日新聞		○		○	○			○			4
読売新聞	○		○			○		○			4
日経新聞		○			○		○		○		4
南日本新聞	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	14

※今年度は昨年度の反省をもとにバランスを考えて購読計画を立てた。残念ながら大きなイベントは中止となってしまったが、コロナ禍での記事などを比較して読むことができたのは有り難かった。

(2) 昨年度(令和元年度)の取組・実践例

①新聞を読む環境整備として、地元の段ボール会社に協力を仰ぎ、新聞閲覧台「ヨモヨモ」を作成した。生徒と手作りし、近隣の小学校や市立図書館にも贈呈し、生徒が新聞に親しみやすい環境づくりに努めることができた。

②学年ごとに一冊ずつスクラップブックを準備し、テーマを設定して記事をまとめた。(1 年『環境・学び・遊び』, 2 年『平和・福祉・環境』, 3 年『進路・仕事・未来』)

※テーマを絞ったためか、実際のところ生徒にはあまり浸透しなかったもので、次年度は一人一冊ずつに変更した。



文化祭で展示した新聞閲覧台とスクラップブック



「よむのび教室」
の様子

「新聞の説明と
はがき新聞づくり」



③これまでも行事おわりや単元によっては A4やB5サイズで「新聞」にまとめる取組をしていたが、昨年度は新聞社から講師の先生に来ていただき、「よむのび教室」として「はがき新聞づくり」に取り組んだ。見出しのつけ方や工夫、簡潔にまとめるコツなどを教わり、その後の授業でのまとめに生かすことができた。

※はがき新聞は、情報量を制限される大変さもあるが、内容を精選してコンパクトにまとめる作業は、国語科の読書郵便作成や修学旅行のまとめ等にも生かされた。

④毎週木曜日の朝の活動「^{つむぎ}紡ぎの刻^{とき}」で複数コラムの速音読と視写(4 分間で 3 つのコラムを速音読し、そのうち一つを 10 分間で書き写す)

※マンネリ化してきたため今後は音読の後、視写から要約する取組に移行していく予定である。

⑤生徒集会や全校朝読書において、新聞記事を使った取組

○被災地への募金に新聞記事を活用

○全校生徒でコラムを読んで意見交換

○行事終わりに感想を 500 字程度でまとめ、「若い目」に投稿する(掲載された記事を校内に掲示して啓発)

⑥「オセモコ」や「よむのび教室」,「本の書評欄」など気になる記事を廊下に掲示して意識を高めた。



被災地への募金をよびかける掲示

(3) 今年度(令和 2 年度)の取組

①NIEコーナーを作り、新聞閲覧や記事の切り抜き等の作業をしやすい環境を整備した。

※これまでは図書室前の廊下に新聞閲覧台を設置していたが、階段の踊り場の一角を「NIE コーナー」として整備し、作業スペースも作った。そして、新聞社ごとではなく、曜日ごとに各新聞をまとめて閲覧できるようにしたことで、記事の比較や情報の収集がしやすくなった。また壁面を使って行事に関連する記事や世間で話題になっている記事をピックアップしたことで、生徒が立ち止まって新聞を読みやすい雰囲気が出てきた。



新しくなった NIE コーナー

②これまでの取組を継続しつつ、各教科・領域でも試行錯誤して新聞を活用した取組の場が増えてきた。

ア 毎月第3金曜日の朝読書の時間を「朝からNIE」とし、主要なニュース記事について、各新聞の記述の「比較読み」をする時間を設定した。(どんな感想を持った？関連して考えたことは？)

イ 生徒会選挙の際に、自民党総裁選挙の新聞記事を活用し、「これからどんな学校にしていきたいか」のマニフェストづくりの参考にした。



朝から NIE の様子



テーマをもとに意見交換



マニフェストづくり

ウ 昨年度はスケッチブックを学年に1冊準備し、テーマを設定していたが、今年度は年度当初に一人一冊ずつ準備した。テーマは決めずに興味のある記事を自由にスクラップする取組に変えた。

12月からは第3金曜日の朝の活動の時間に、自分がスクラップした記事について、一人1分ずつ発表する「スクラップブックトーク」を実施している。

※半ば強制的な取組だが、発表の日に向けて新聞閲覧台に集まる様子はうれしい限りである。また生徒一人一人が興味をもった理由を語り、意見交換を行うことで記事に対する見方に深まりが生まれている。毎月ビブリオトークも行っているので、生徒たちはその経験も生かしていると感じる。



記事をさがす生徒たち



聞きたい記事を選ぶ



一人1分ずつ発表して交流

エ 毎週木曜日の朝の活動で実施している「紡ぎの刻」(5教科のローテーション)と連動して、南日本新聞のサイト「みなみ Edu～新聞で学ぼう」からワークシートをダウンロードして15分学習。

オ NIE で税を考えるゼイ …租税教育の一環で記事を掲示して啓発する。

カ つれづれ NIE …担任がノートを準備し、記事に対して感想や意見を記入する取組。

キ 新聞記者の経験がある高校の先生を講師に招いて「新聞活用授業」(出前授業)を実施。

※ 新聞のしくみや記事の書き方、魅力を語っていただき、後半は実際に「今年の重大ニュース」として5W1Hを用いて記事を書く取組を行った。日々忙しく新聞から足が遠のいていた生徒たちがNIEコーナー(新聞閲覧台)に集まるようになってきた。定期的に刺激を受けることの大事さを実感した。



3 成果と課題

【成果】

・昨年度から2年間NIEに取り組んできた。実際新聞を取っていない家庭も多く、日頃新聞を目にすることも多くない生徒たちが、実際に新聞をめくり、考えを深める時間を確保できたのは有り難いことだった。

・一分間スピーチなどで、世間のニュースについて発表するとき、表面的な意見ではなく、多角的な視点で物事をとらえている生徒が増えてきた。

・生徒はスクラップブックに記事を貼る作業で、自分の興味のある話題について見つめることができた。また、その記事について語ることで、伝える難しさや楽しさも感じているようだった。

・教員からの働きかけに対して、生徒発信の活動がみられるようになってきた。(新聞記事を利用した独自の新聞作成や生徒会の募金ポスター作成、作文の題材選びなど)

・日々届く新聞を、いかに生徒の目に触れさせるか、そして考えさせたい話題や正解のない課題に対して、どんな意見を抱かせ、表現させるかについて生徒とともに考える機会が作れたことは良かった。



↑「はがき新聞」で修学旅行のまとめ

【課題】

・忙しい生徒たちが、継続的に新聞コーナーに足を運ぶためのしかけづくりをどうするか。

・継続的に興味や関心を抱かせるためには、教員側も日頃から新聞を意識し、アンテナを高くしておくことが大事だと考える。

・昨年はPTAの場で、親子で記事について語り合う場をつくれたが、今年度はコロナ禍で実施ができなかった。家庭への意識づけとして意義深い取組なので今後も検討していきたい。

・新聞を通して自分自身も成長することができた。今年度でNIE実践校としては終了するが、これまでに培ってきたノウハウは今後も継続して取り組んでいきたいと思う。

・来年度「スクール373」が採用されれば、ICTを活用して新聞に触れ、生徒の学びを伸ばす実践を続けていきたい。